

【日時】

令和 5 年 6 月 2 9 日（木）14：30～15：00 学校見学 15：10～17：00 運営協議会

【場所】

新館会議室

【参加者】

< 学校協議会委員 >

井坂 行男 （大阪教育大学教育学部 総合教育系特別支援教育部門 教授）

伊藤 弘一郎（南大江東連合新興町会 会長）

前田 浩 （大阪ろう難聴就労支援センター 理事長）

良原 恵子 （大阪府立スクールカウンセラー スーパーバイザー）

尾中 友哉 （NPO 法人 SilentVoice 代表）

佐藤 てるみ（PTA 会長）

1. 開会

2. 学校長挨拶

委員自己紹介

3. 各学部からの報告

4. 議事

①令和 5 年度学校経営計画について 学校長より説明

< 委員からの主な意見・質問及び回答 >

- ・卒業後、いろんな人と共に働くという点から考えると、一般の学校との交流も大事だが、それ以外にも幅の広い障がい者と関わる必要がある。
- ・小・中学校の授業見学については、子どもたちは地域ごとに特性があることを考えると中央区以外の学校を見学するのもよい。
- ・学習指導要領の主体的で対話的で深い学びについての取組はどれにあたるのか？
→学習指導要領が変更になるので平成 30 年から令和 3 年までの 5 年間は「主体的で対話的で深い学び」をテーマに学校全体で研究に取り組んできた。現在はそのベース上に「聴覚障がい教育の専門性向上をめざしたリフレクション」テーマに研究している。
なので、「主体的で対話的で深い学び」はどの活動においても行われている。
- ・中期的目標 2 の（1）については子ども発信なので、今の生徒指導提要の内容に合っている。
めざす学校像の 2 については「～かなえられる学校」ではなく、子どもを主語にした文言にしてより伝わると良い。「子どもたちが自分の夢をかなえる学校」としてはどうか。
- ・経営計画から、生徒や保護者のアンケートの結果を指標にて次の年度の活動に反映しているのはとてもわかりやすい。保護者、生徒によりそういう気持ちが強く伝わる。
→教職員には、この経営計画の指標を達成するのが目的ではなく、子どもたちがどんな取組をして成長や変化をしたかが大事だと伝えている。
- ・教職員の説明責任、職務責任が問われる時代である。アカウンタビリティに重きを置く時代に教育庁は意識しているのでは。
- ・研究で昨年度末、聴覚障がい者の語彙力検査をしたが、語彙年齢が伸びている。幼児児童生徒の伸びの部分を先生方はどのように評価されているのか？

→長く子どもたちを見ているが、文章力が上がっているのはたしかである。話し合い活動をよくしている。

話し合い活動は、教員がサポート役で児童生徒が主体になって進めている。

→伝える方法が増えているのが理由か。昔はFAXができたときに書くことが増えた。そこから聴覚障がいのある人でもメールでやりとりができるようになった。SNSによる交流も増えた。

学習形態がよくなってきている。今は人の意見を聞く、自分の意見を整理して言うなどのトレーニングができるような社会や教育に変わってきている。

- ・先生方のリテラシーを高める教育の成果が出ていると感じる。引き続きお願いしたい。
- ・全国的にあることだが、外部環境が変わって支援学校の在り方が変わってきている。
- ・地域の活動内容がここ半年で大きく変わってきている。なんとかもとの活動内容に戻せるように頑張っている。
- ・さくら連絡網のおかげで、資料等が慌てず配付できるので安心して利用できているという声を聴いている。

5. 事務局より

6. 閉会